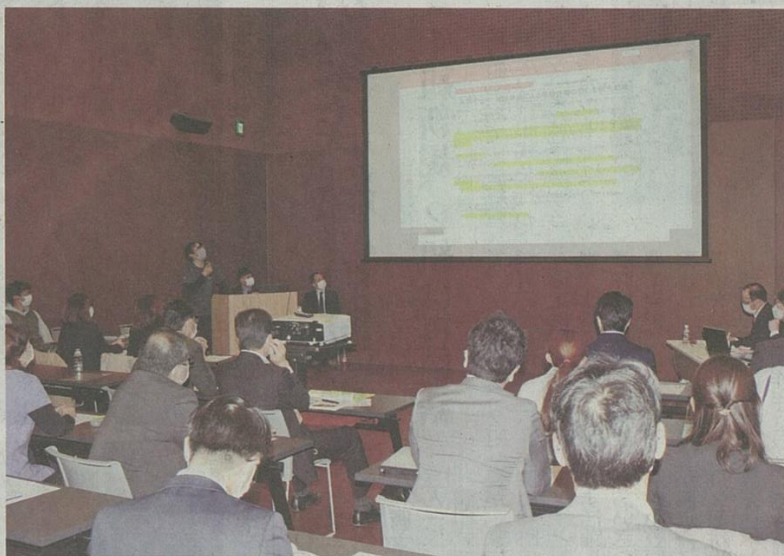


学生×企業 新事業企画



企業と学生が意見を申し出て生まれた事業や新商品を説明した成果報告会

「共創ビジネスプログラム」成果報告会

八戸

青森県は15日、産学官金連携で新たなビジネスの企画立案に取り組む「あおもり共創ビジネスプログラム」の成果報告会を八戸市美術館で開いた。県内企業が大学生から斬新なアイデアを得て開発した新たなビジネスモデルや新商品を提案した。（小嶋嘉文）

EVシェアリングなど3社が紹介

共創とは、企業が自社内だけで行ってきた商品開発などを、教育機関や自治体などと協働で進める新しい考え方。県の本年度事業として実施し、県内3社が1月以降、八戸学院大の学生と意見を交わしてきた。

総合建設業の小坂工務店（三沢市）は電気自動車（EV）のカーシェアリング普及に向け、EVの試乗体験を兼ねた防災キャンプの実証実験や、動画を活用したPRについて発表。水産加工業のマルカネ（八戸市）は交流サイト（SNS）を活用した商品の魅力発信を紹介した。

造園業などを手がける環境緑化工業（同）は自社農場で栽培するトマトの普及に向け、近年人気のグランピングを組み合わせた事業について説明した。

同大の水野眞佐夫学長は「企業には、学生の秘めたる力を引き出してもらった。地域の発展に向け、共創プログラムをさらに活性化させていく重要性を感じた」と講評した。